

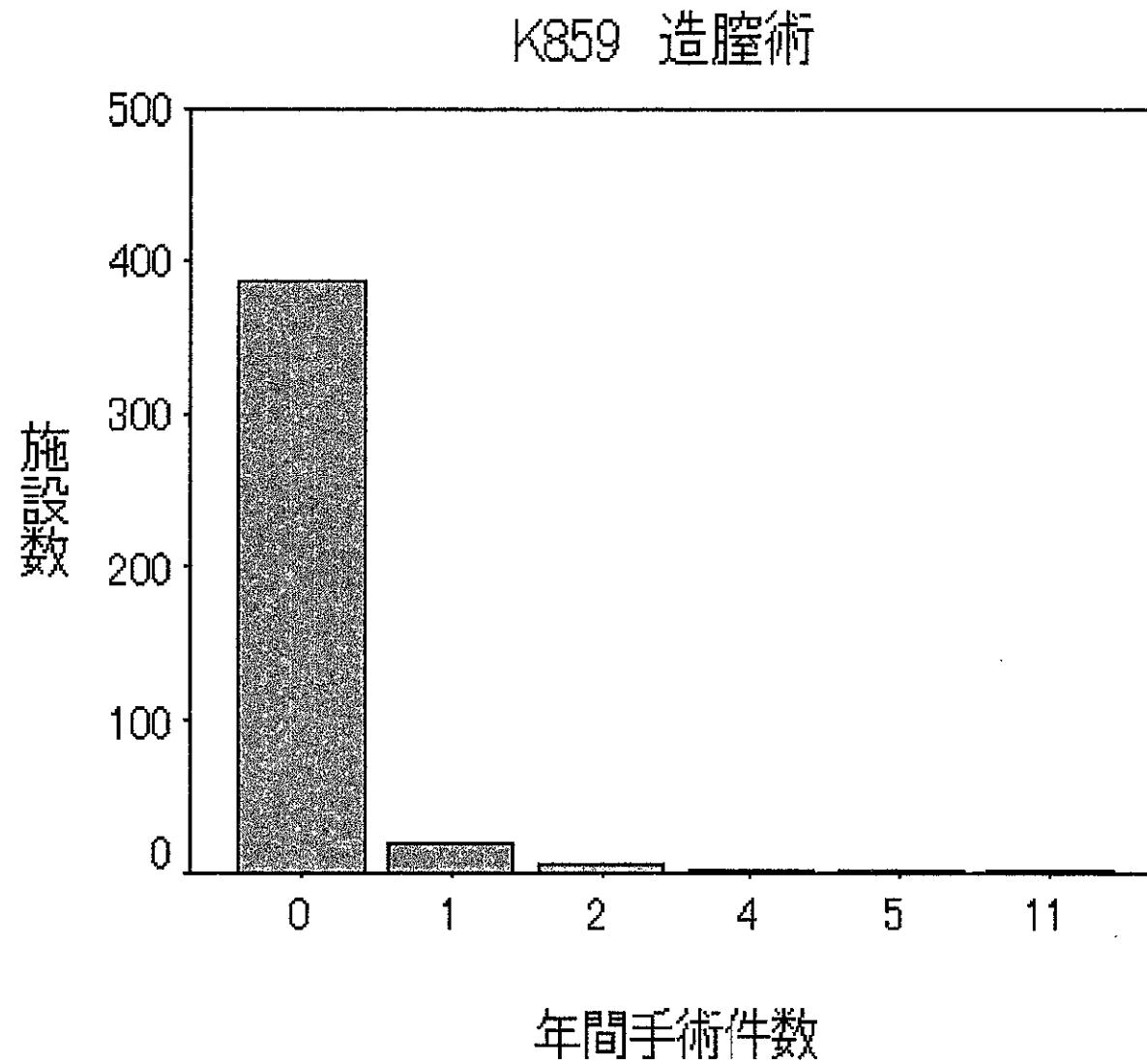


図3 造脘術症例数の分布

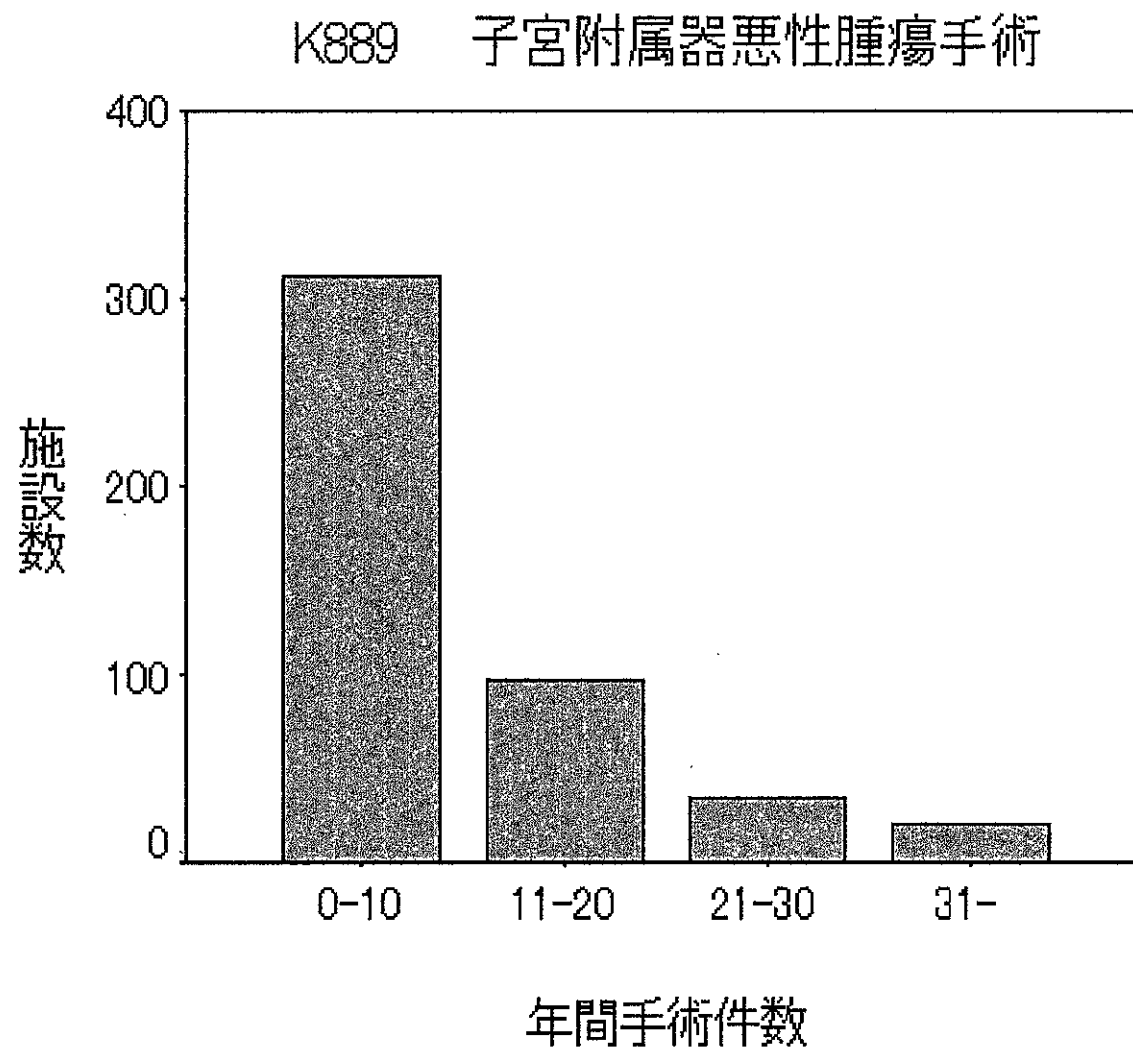


図4 子宮附属器悪性腫瘍手術症例数の分布

K890-2 卵管鏡下卵管形成術

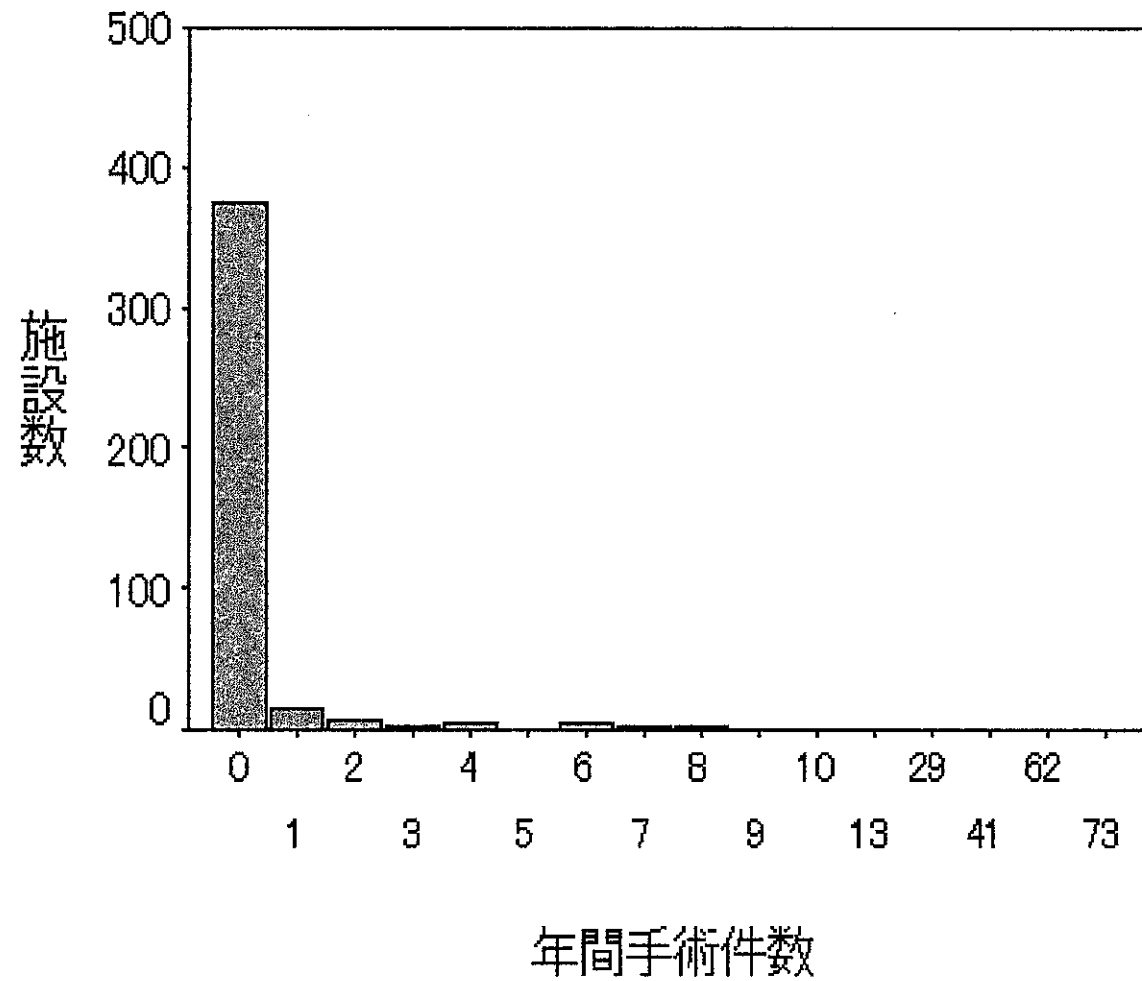


図5 卵管鏡下卵管形成術症例数の分布

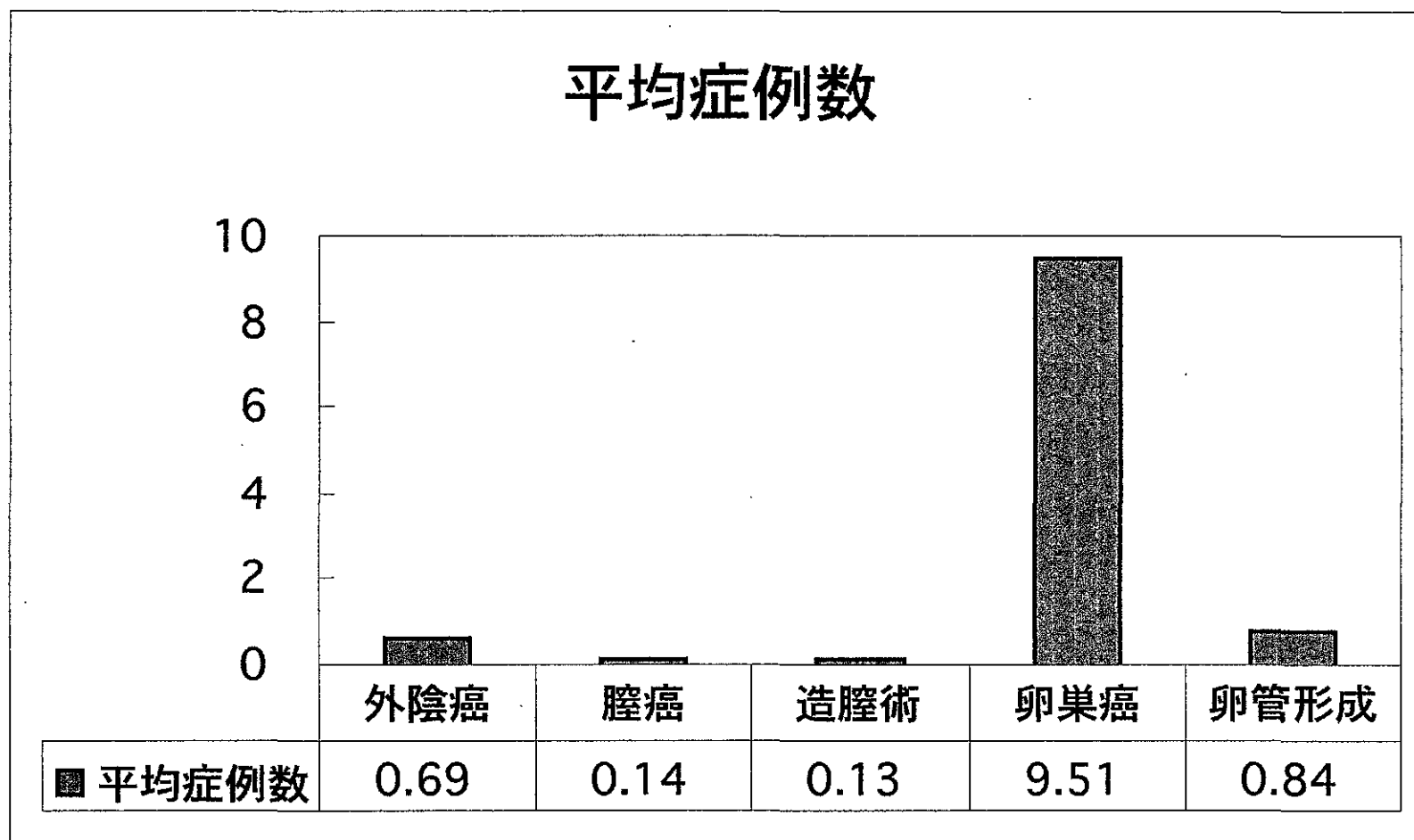


図6 各手術群における平均症例数

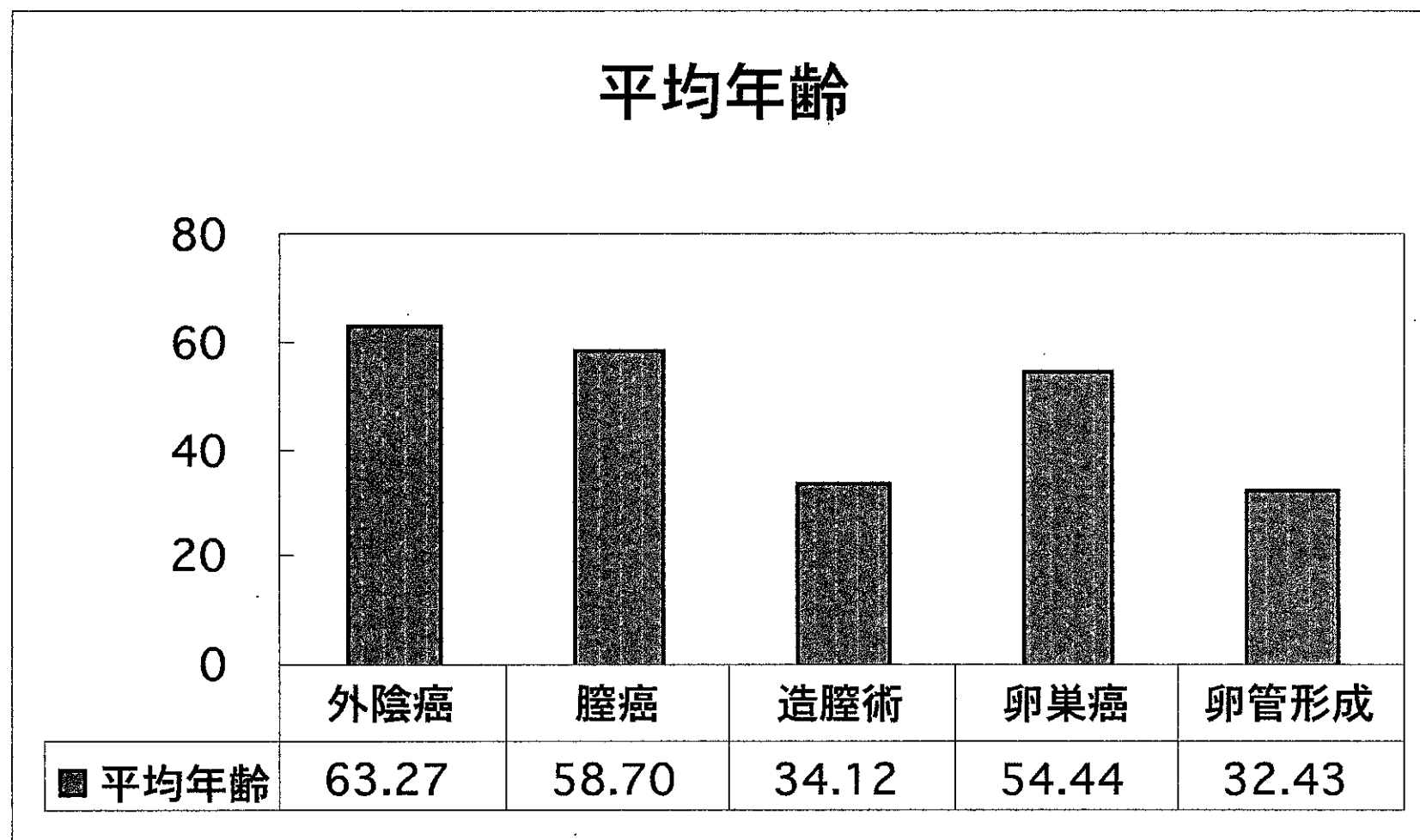


図7 各手術群における平均年齢

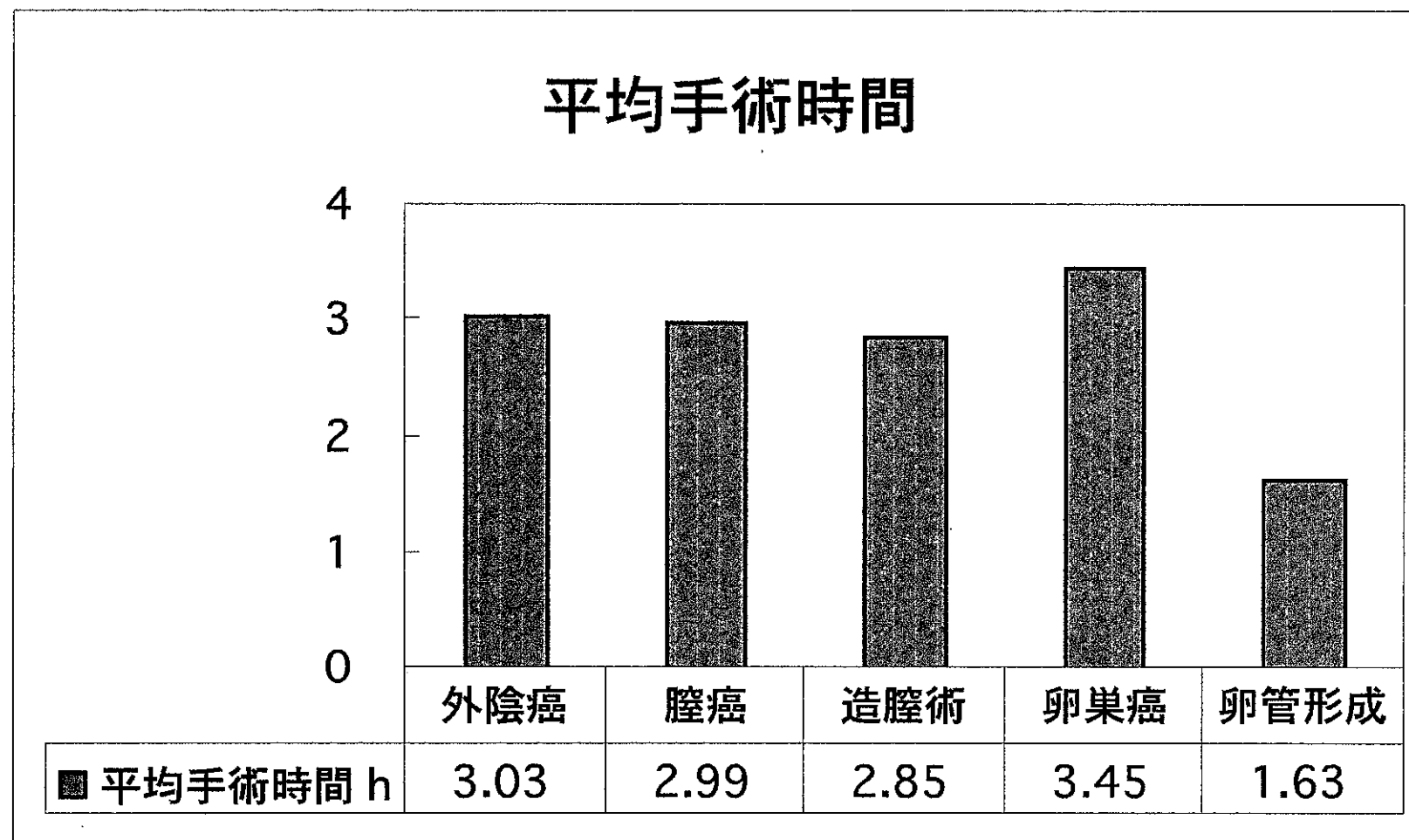


図8 各手術群における平均手術時間

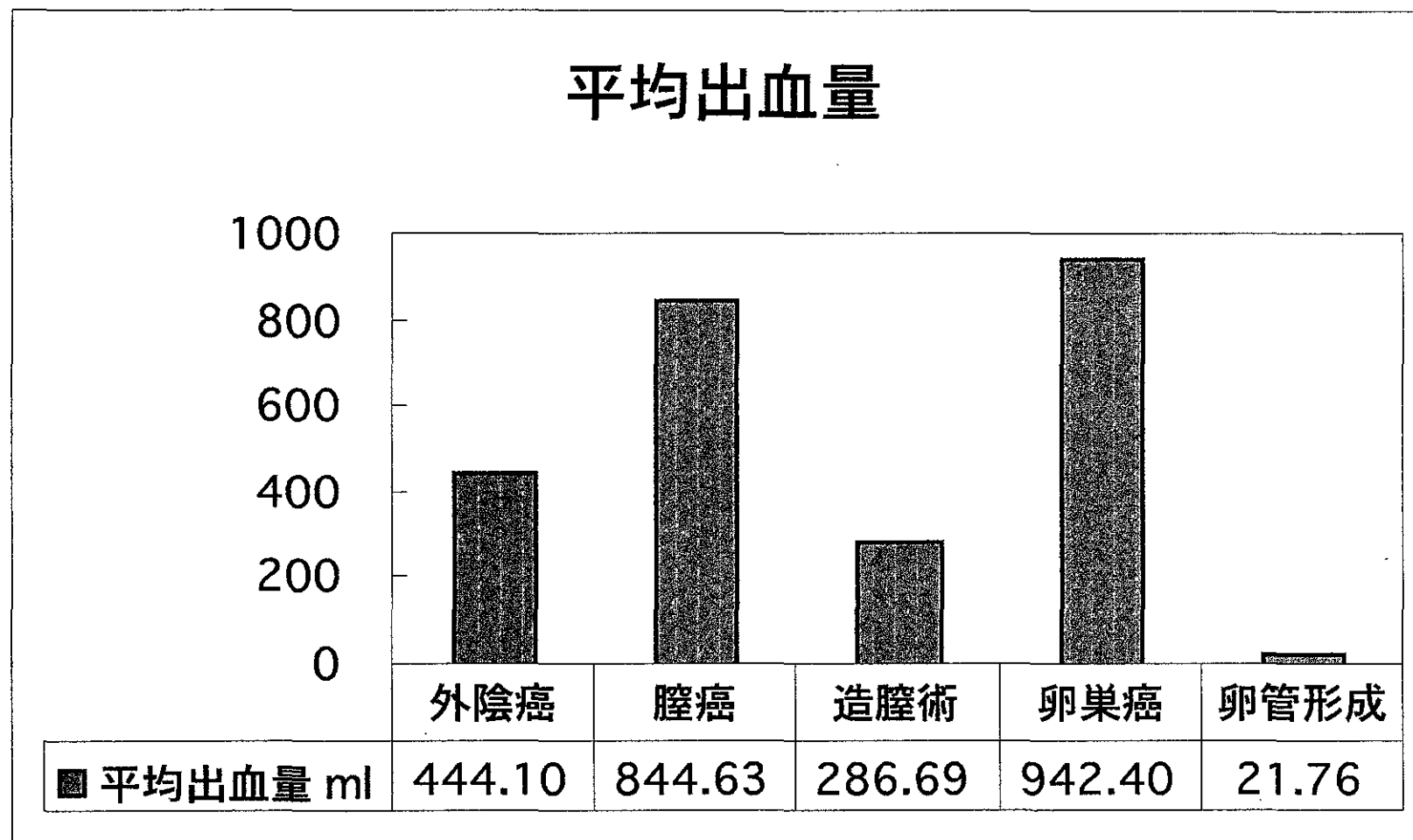


図9 各手術群における平均出血量

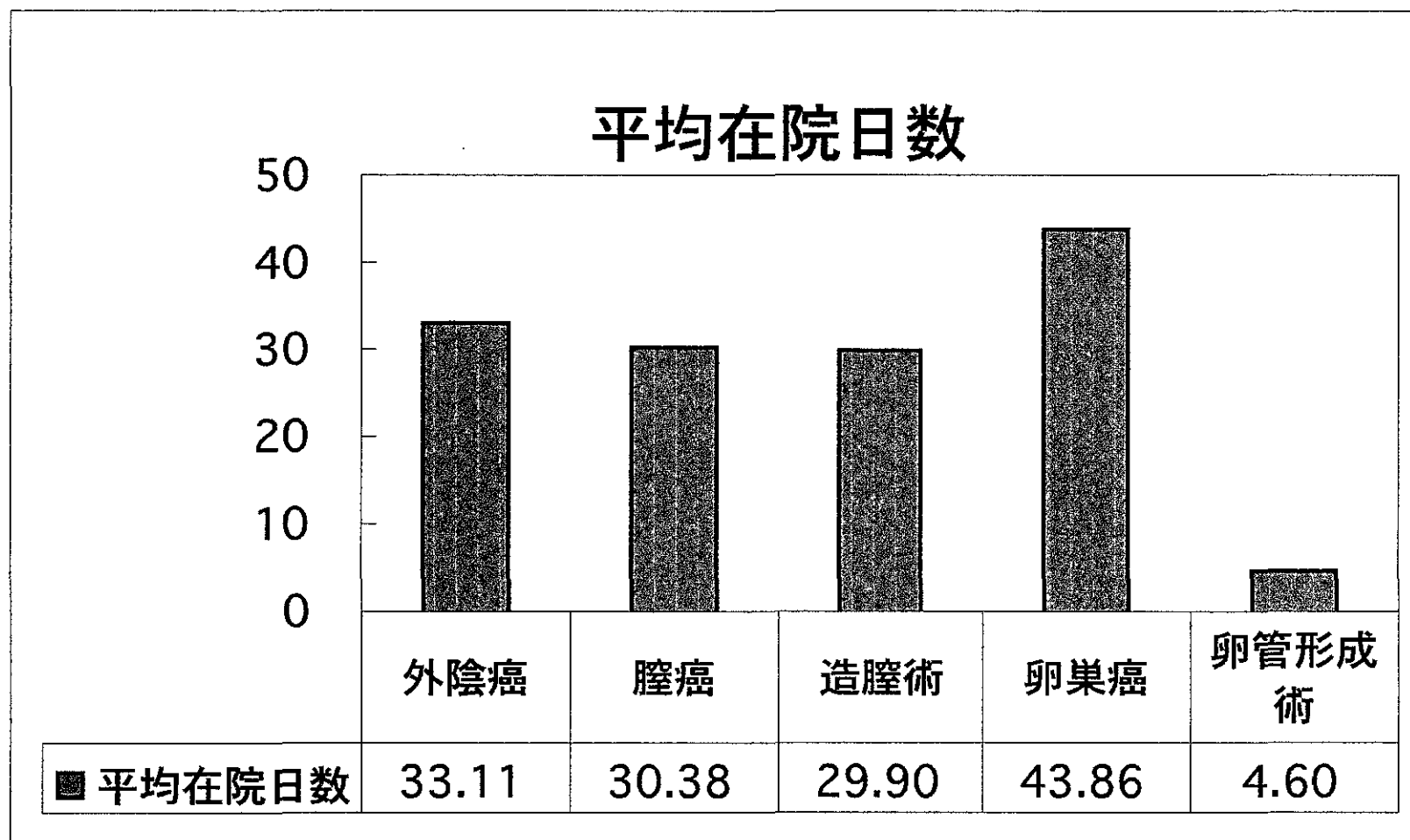


図10 各手術群における平均術後在院日数

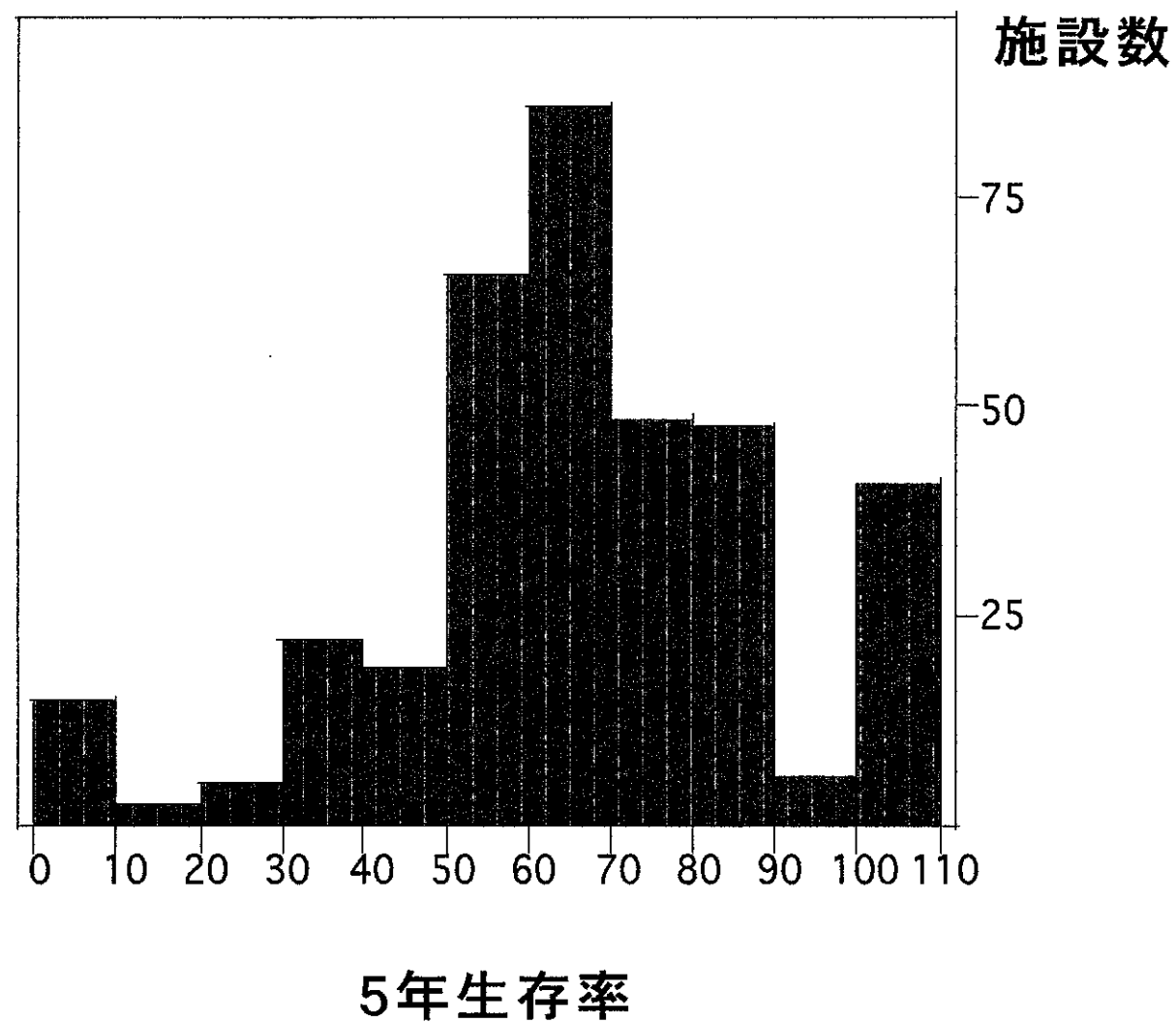


図11 各施設における卵巣悪性腫瘍5年生存率の分布

表1 各手術群における基礎データ一覧

	外陰癌	膣癌	造膣術	卵巣癌	卵管形成術
平均症例数	0.69	0.14	0.13	9.51	0.84
(中央値)	0	0	0	6	0
平均年齢	63.27	58.70	34.12	54.44	32.43
(中央値)	68	60	22	54	31
平均手術時間 h	3.03	2.99	2.85	3.45	1.63
(中央値)	2.90	2.55	2.55	3.00	2.00
平均出血量 ml	444.10	844.63	286.69	942.40	21.76
(中央値)	215	420	140	760	0
平均在院日数	33.11	30.38	29.90	43.86	4.60
(中央値)	28	24	18	30	5
回答数	424	423	416	464	417

表2 子宮附属器悪性腫瘍手術における各関連因子相互の相関

病床数	相関係数	1							
	有意確率 (両側)	.							
症例数群	相関係数	.377(**)	1						
	有意確率 (両側)	0	.						
卵巣癌数	相関係数	.485(**)	.829(**)	1					
	有意確率 (両側)	0	0	.					
患者年齢	相関係数	-0.017	-0.08	-0.07	1				
	有意確率 (両側)	0.743	0.117	0.169	.				
手術時間	相関係数	0.077	.122(*)	0.1	0.017	1			
	有意確率 (両側)	0.135	0.017	0.05	0.735	.			
出血量	相関係数	0.083	.175(**)	.215(**)	0.039	.535(**)	1		
	有意確率 (両側)	0.108	0.001	0	0.456	0	.		
在院日数	相関係数	0.057	0.041	0.082	0.055	.189(**)	.186(**)	1	
	有意確率 (両側)	0.283	0.437	0.122	0.298	0	0	.	
5 生率	相関係数	0.001	0.09	0.022	-.110(*)	0.039	0.029	0.074	1
	有意確率 (両側)	0.988	0.086	0.677	0.042	0.478	0.599	0.189	.
		病床数	症例数群	卵巣癌数	患者年齢	手術時間	出血量	在院日数	5 生率

* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)

平成17年3月24日

外科系学会社会保険委員会連合 御中

社団法人

日本脳神経外科学会

保険委員長

外保連 実務委員 片山 容一

外保連 手術委員 阿部 琢己

手術アウトカムと症例数に関するアンケート調査報告

本学会は、施設基準とアウトカムの関連性の有無を調べるため、脳動脈瘤クリッピング術に対し、全国規模の調査を行った。

日本脳神経外科学会認定の専門訓練施設A項施設を対象に、平成15年1月から12月までの1年間に、破裂および未破裂脳動脈瘤患者に対して行った脳動脈瘤クリッピング術に対し質問票による調査を実施し、各施設のクリッピング術の手術件数、各症例の入院時の重症度（WFNS分類）、退院時転帰（Modified Rankin Scale）についてのデータを集積した。更に、現在の施設基準をもとに、各施設を、クリッピング件数30未満、30以上50未満、50以上の3つのグループに分け、手術件数と死亡率、機能的転帰の相関性について検定を行った。

369施設からの回答が得られた（回答率：96.6%）。クリッピング術の総数は、破裂脳動脈瘤が7,578件、未破裂脳動脈瘤が4,396件であった。手術件数に関しては、年間30件未満の病院は208施設で全体の56.4%も占めたのに対し、年間30件以上の施設は161で、全体の43.6%であった。そのうち、30件以上50件未満は96施設で26.0%、50件以上は65施設で17.6%であった。死亡率は、破裂動脈瘤が平均7.6%、未破裂動脈瘤では平均0.2%であり、手術件数と死亡率について有意差をもった関連性は認めなかった。手術件数と機能的転帰についても、有意差をもった関連性はみられなかった。

脳動脈瘤クリッピング術における手術件数と転帰の相関性に関しては、欧米の研究チームからいくつかの報告があるが、人種、医療制度、医療レベル、医師教育システムの違いなどを考慮しなければならず、またこれらの研究には統計的処理にも問題があり、日本において施設基準を導入する根拠にはならない。また、今回の我々の調査でも、手術件数と転帰の相関性は全くみられず、現在の施設基準は、日本の医療の現状を無視したものであると言わざるを得ない。

今回の調査結果および現在の医療体制を考慮し、日本脳神経外科学会では、施設基準の廃止を要望する。

破裂脳動脈瘤

		Modified Rankin Scale								合計	P value
WFNS	クリッピング件数	0 (%)	1 (%)	2 (%)	3 (%)	4 (%)	5 (%)	6 (%)			
I	30未満	558 (73.4)	184 (11.1)	44 (5.8)	25 (3.3)	26 (3.4)	12 (1.6)	11 (1.4)	760	0.18107	
	30以上50未満	527 (68.6)	101 (13.2)	45 (5.9)	39 (5.1)	26 (3.4)	12 (1.6)	18 (2.3)	768		
	50以上	550 (72.7)	99 (13.1)	39 (5.2)	27 (3.6)	15 (2.0)	6 (1.0)	21 (2.8)	757		
II	30未満	385 (50.9)	137 (18.1)	84 (11.1)	49 (6.5)	39 (5.2)	24 (3.2)	38 (5.0)	756	0.148107	
	30以上50未満	344 (50.1)	103 (15.0)	79 (11.5)	66 (9.6)	40 (5.8)	12 (1.7)	42 (6.1)	686		
	50以上	367 (53.3)	131 (19.0)	71 (10.3)	45 (6.5)	28 (4.1)	23 (3.3)	23 (3.3)	688		
III	30未満	167 (22.7)	155 (18.6)	153 (18.0)	47 (15.9)	37 (12.5)	10 (3.4)	26 (8.8)	295	0.380703	
	30以上50未満	167 (32.1)	131 (14.8)	27 (12.9)	30 (14.4)	28 (13.4)	11 (5.3)	15 (7.2)	209		
	50以上	163 (29.3)	139 (18.1)	31 (14.4)	32 (14.9)	22 (10.2)	8 (3.7)	20 (9.3)	215		
IV	30未満	198 (20.5)	160 (12.5)	178 (16.3)	152 (10.9)	172 (15.0)	154 (11.3)	165 (13.6)	479	0.153416	
	30以上50未満	157 (13.5)	153 (12.5)	161 (14.4)	172 (17.0)	184 (19.9)	143 (10.2)	153 (12.5)	423		
	50以上	103 (21.1)	152 (10.7)	186 (17.6)	153 (10.9)	173 (15.0)	150 (10.2)	171 (14.5)	488		
V	30未満	123 (6.7)	118 (5.3)	125 (7.3)	125 (7.3)	155 (16.1)	189 (26.1)	106 (31.1)	341	0.905729	
	30以上50未満	112 (3.5)	124 (7.1)	125 (7.4)	132 (9.4)	156 (16.5)	192 (27.1)	98 (28.9)	339		
	50以上	122 (5.9)	125 (6.7)	119 (5.1)	137 (9.9)	159 (15.8)	190 (24.1)	122 (32.6)	374		

There was no difference in the hospital volume and mRS score (not significant, Kruskal-Wallis test).